

さうなつて來ると腦膜炎と云ふことが十分に備つて居るのであります。

それから少し注意すると分ることでありすが脈が遅くなつて來る、子供の脈と云ふものは非常に早い、一分間に百位打つ、少し熱でもあると百以上になる、その反對で熱があつてさういふ状態でありながら脈が減つて七十打も六十打ちそれとも正しく打つて居らない、三つ打つては止め、十打つては止めると云ふ風に時々切れ／＼に打つといふのは既に腦膜炎の特有の徴候である、是は哺乳兒にも來るのでありますから、前に申したやうな症状があつて今のやうな遅い不整然な脈であるといふと醫師の診斷も直ぐ付くのである、それから膜膜炎の進んで來るのに二タ通りある、非常に沈衰するのと興奮するのとある、興奮する方は頻りに痙攣を起す、殆ど日夜間斷なく續け様にブル／＼震はす、手足を固くしてさうして全身を震はせる、さうでない沈衰の方は多く寢てしまふ、さうして手足も左ほど固くならず——少し位固くなるけれども震はせるといふ程でもなく、殆ど昏

昏たる状態を呈して目を閉ぢて眠り次第にそれなりに精力が衰へて死んで仕舞ふのもある、又眠つて居る間に時々震へるやうなものもある、多く死に近付くといふと痙攣が止んで仕舞ふ、止んで仕舞ふからして良い方に向いたのであると油斷をして居るとイッか麻痺症に陥つて居るので、死に瀕して居るのであります、先づ痙攣といふのは斯んな風でありますチヨツと思付きました概略を申上げました。(完)

## 日本婦人の姿勢

醫學博士 田代義徳氏談

●日本婦人と西洋婦人 單に姿勢と云へば睡眠の状態も跪坐の状態も皆等しく姿勢であります、併し私が今茲に言はうとしますのは立姿と行姿であります、そこで日本婦人の立姿と行姿とを西洋婦人のそれと比較しますと大變に違つて居ります、これは敢て私一人の見るところではありません多

くの知人に尋ねて見ましても皆確かに違ふと云つて居ります、西洋の男女に聞いて見ても矢張り其通り答へます、いかに生れた國が違ふからと云つて、同じ人間でありながら何うして斯様に違ふのであるかその相違の點を説明しやうと云ふには、各國の婦人が皆それ／＼特長短所を異にして居て、恰も西洋婦人と日本婦人と違ふやうに違ふのであるか、或は人種の異同が關係して居るのか、是等を研究して何れが果して目に見えて佳い姿と云ふので有らうか、又醫學上から考へて姿勢と云ふものが何う云ふ問題を解釋するか、醫學上美術上から云ふ處の模範的姿勢と云ふのは何う云ふので有らうか、西洋婦人と日本婦人と何方が模範的姿勢に近いかと云ふことから説いて往かなければなりませぬ、我國の婦人だけに就て見ても殆ど其姿勢は千差萬別であつて、決して一ツ型ではない、又昔の人と今の人とを比べて見ても大變に違つて居りますが、要するに今日の婦人の姿勢は屈み勝ちであります、が然らば其屈み勝ちの姿勢が模範的に近いのか、何うか若し模範的でないとするれば何故斯

の如き風姿を爲すに至つたか、是等に就いて多少私の意見を述べて見たいと思ひます。

▲模範的姿勢 私には婦人の模範的姿勢を正容と申して居ります、即ち婦人の正容とは何う云ふのを指すかと云ふに縦の直線が頭部の中心から耳を通つて脊髓の下部を通り股の中心より足部の中心に達する、是れならば申分のない模範的姿勢でありま

す、人體の脊髓と云ふものは一體眞直であるべきもので、ですからそれ故誕生前の嬰兒の脊髓は眞直であります、ありますけれど、這ひ、立ち、歩き始めると頭部の重さが加つて、其結果脊骨が曲つて來ます、其曲り方は上部半分は外に、下部半分は内に曲ります、これに筋肉を附けますと、體の容は肩が後に反つて、腹部が前に出るやうになります、さうして其立姿は少しも筋肉の力を惜りず自然の儘に悠々然として居ります、西洋婦人の立姿は先づこれに近く、此模範的正容に對して情容も名けました姿勢は、胸が引込んで中心點より脊髓が餘計後に傾き足も中心より少し後に曲つて居ります、我國の婦人の姿勢は之に近いのです、併し又脊髓側撃と云

つて脊骨が側の方に曲る、これは病的の姿勢であります、これは西洋婦人に多く私の見る處では我國の婦人には割合に少ないと思ひます。

▲東西婦人の胸の長短 婦人の模範的正容を見ました上更に各國婦人の立姿を見ますと固より爾う大した相違のあるべき筈はありませんが、只何となく歐羅巴婦人の姿は目に立つやうに思はれます肉附の工合から胸の長さ、四肢の長さの比例等が宜いのです、併し此處に一つ御話をしなければならぬことがあります、それは好く世間の人が歐羅巴の婦人は胸が長いから姿が佳いけれど、日本の婦人は胸に比して足が短いから格好が悪いと言ひますが、足の短いと云ふことは一體衣服を着た上に於ては差支のないことであります、實際を云へば西洋婦人の足は、胸に比して長くはありません(西洋の男子は長い)ので、足が長く見えると云ふのはつまり衣服の中心が、上の方に取つてあるからで、言ひ換ふれば人工的に下部をスーツと長く見せるやうに着附けて居るのであります、日本でも十四五の娘が堅矢の字を脊負つて立ちます

と、非常に下部が長くなつて、人の眼に美しく見えます、裸體になつた時多少足が短くてもこれは衣服で隠すことが出来ますから、衣服の中心點は肉體の中心點とは各々別でなければなりません、或人は日本婦人の足の短いのは何か人種が下等であるかの様に考へて居ますが是は大變な間違ひであります、又日本婦人と西洋婦人との足に就て異つて居る點は、西洋婦人の足頸は細いのですけれど日本婦人の足頸は一足は小さいけれど一太いのであります、夫から西洋婦人と日本婦人は容に於て相違の點を擧げて見ますと、西洋婦人は肩巾が狭く、腰部が廣いのです、それに反して日本婦人は肩巾が廣く、腰部が狭いのです或西洋人が日本婦人の美は、ふつくりと圓味を持つた肩の工合にある、日本婦人の肩はいかにも美術的に出て居ると評しましたが、いかにも西洋婦人と比して此邊にも體容の相違が見出されるのであります。

▲日本婦人の今様と古風 日本婦人の今様姿は申すまでもなく皆様が御承知の通りであります、

古の日本婦人の姿勢は矢張り今のやうであつたかと云ふに、私は多少違つて居つたと思ひます、それは古い彫刻物或は浮世繪等に就て見ても分りますが、古くからの文學者の筆に描かれたもので古の婦人の容姿を知るに足る所の何か参考になるものはないかと思つて、いろいろ調べて見した處が萬葉集の中に「腰細のすがのおとめ」と云ふことがあつて、婦人の美容を誇つて居ります、又竹取物語の中にも腰細云々の語があつて、古の日本婦人の姿勢に就ては貌のことはいろいろ書いてありますが、容の上では腰部のことだけであつて此處に重きを置いたことがよく分ります但し昔からの腰と云ふのは主に下半身を云つたのです。

▲西洋婦人の今昔 西洋婦人の姿勢も亦現在の婦人と古の婦人と石膏彫刻などに因て見ても相違のあることが分ります、昔の婦人の立姿は少しも筋肉の力を用ひないで悠々と立つて居るやうに見えるが、現在の婦人は多少筋肉の力を用ひて居ることが一體の容子に見えて居ります。

▲彼我婦人の體容 日本婦人と西洋婦人との體容

を比較して見ますと、西洋婦人の骨盤は前方に傾いて居つて其傾斜が甚だしく、それに比して日本婦人は傾斜が少なく、割合に水平になつて居ります、此骨盤の傾斜の割合で姿勢が違つて來ます、御承知の通り西洋婦人は踵の高い靴を穿きますから自然骨盤が前の方に傾き、從て胸も前の方へ出るやうになります、此踵の高い靴と日本婦人の姿勢とのことに關し多少研究をして居ることがあります、と云ふのは明治時代に女子教育が盛になつた結果、嚮後婦人の姿勢が多少變遷するで有らうと思はれ又既に變遷しつつありはしないかと思はれます、それは主に衣服穿物などに關係して居るので、女學校に通ふ女子が高いつの尖の細い靴を穿きますと其體の容は自然違つて參ります、それは皆さんが踵の高い靴をお穿きになつた時と普通の草履なり下駄なりをお穿きになつた時と、體の調子の違うのを考へになつても直ぐに分ります併しながら此踵の高い靴と云ふものは、歐羅巴人が穿いてもあまり上品なものでありません、況して日本婦人が僅かに一時間や二時間穿いた處で別

に風姿を上げる譯でもなく何の益もない話であり  
ますから先づあまりに飛び放れた姿はしない方が  
宜しからうと思ひます。

▲婦人身體の特長 一體男女の身體と云ふものは  
男子は何處までも角張のが特長で、それと反對に  
婦人は何處までも圓くなるのが特長です、婦人は  
姿勢でなく恐らく心も圓満に發達しなければならぬでせう、けれども、身體がギス／＼して角張  
つて居るやうでは婦人の本性を失つて仕舞つたも  
のと云つて差支へありません、生理上婦人の皮下  
脂肪組織は全然男子と違ふのでありますから、婦  
人はどんなに痩せて居ても何處か圓く見えます、  
又模範的の圖を見ても古い繪を見ても石膏を見て  
も婦人の身體は自然に圓くなつて居ります、殊に  
前に申した腰は最も大切で譬へば踊にしても相撲  
にしても劍術にしても柔術にしてもいくら手振足  
踏が好くとも腰付が悪くては駄目であります。  
▲姿勢と意思 昔からの日本婦人の姿勢を古い彫  
刻繪畫等で見ますと、奈良朝平安朝鎌倉時代室町  
時代足利時代徳川時代江戸時代明治時代と云ふや

うに同じ國に於てすら、時代に因つて多少異つて居  
ります、これは獨日本許りでなく西洋婦人でも希  
臘羅馬時代と今日の姿勢とは大變違つて見えます  
斯の如く姿勢の變遷する處を以て見ますと、姿勢  
と云ふものは人々の意思に因つて或程度までは變遷  
するもので有らうと思ひます、何故なれば人軀の  
骨盤關節と云ふものは、動くものでありますから  
之に附着する筋肉に因つて姿勢を氣を附けることは  
隨意に出来るものでありますから、即ち其姿勢は  
時代の狀況好尚等に因つて相違を生ずるは分り易  
いことで、時々刻々多少變遷しつゝあるに相違あ  
りません。

▲姿勢と衣服 姿勢に影響するのは衣服、結髪、  
穿物、家屋の建築、作法等であります、彫刻繪畫  
等に因つて奈良朝時代の風俗を見ますと彼の時の衣  
服では勢ひ屈み勝ちにはなれませんが又平安朝時代  
の垂髪なども自然反身にならねば居られませんが、  
其垂髪の例は遠く古を温ぬるまでもなく今日垂  
髪的女學生が往來を歩いて居るのを見ますと、體  
が真直になつて恰好が大變宜い、身長も古の人の

方がスラリとして居る、併ながら是れも今の婦人は大變に丈を盗んで居ります、即ち巾廣の帯と云ふものは巾の狭い帯に比して丈が低く見えます、それから又同じ歩くにしても疊の上を歩くのと住來を歩くのとでは自ら姿勢が違ひます殊に高い足駄を穿いて砂利の上を反つて歩くことは誰にも出来ません、自然俯向くのが當然です、それから端坐と云ふことは全身の筋肉の働きを要するので一層草臥れます、腰を掛ける方が餘程筋肉が休まります、肩の凝ると云ふことは日本人の特有でこれなども或は坐る爲めではないかと思はれます、斯様に姿勢と云ふものは周囲の状態に關係するものでありますから自然に任して置いて何うでも宜いものと考へて居つては、大變な心得違ひでありますから成る可く等閑にせず美き姿勢を保つやうにしなければなりません。

▲端嚴なる姿勢 姿勢は單に美の上から言ふばかりでなく孔子も容儀を整へることに就ては常に注意を怠られなかつたことは論語を御覧になつても分ります、情弱にして捨て、置けば姿勢は段々醜

くなり、單に醜いと云ふだけならば當人の損に止まりますが時に或は病を惹起し、前に言ふ柱側變など、云ふ病氣になります、一度此病に罹れば醫師が治療に苦心してもなかく癒りませぬ之を豫防するのは常に姿勢に注意するより外ないのであります、尙姿勢は單に外形に現はれて、之に對する人に美醜正情を感じしむるのみならず自分の精神的に及ぼす力も亦尠くありません、苟くも姿勢が亂れて居りますれば自分も怠り易く人も忸れ易いから戲談の一つも云つて近づき、遂に深き誘惑の淵にも陥るやうな事になります、姿が端嚴であります、一言の戲談を云ふにも人が遠慮を致します、其外常人に取つて好い姿勢は自分の心持を清らかに致します、例へばむづかしい書物を讀むとか、又自分の心持が特に正しい時には、如何にも姿勢が正しくなり、それに反して心に弦みの生じた場合には、いつか姿勢も崩れて來ます、作法の書を見ますと、凡そ禮の要は容體を正しうするに在り云々とあつて、確と坐つて手を膝の上に置くと自然心地まで改つて來るもので

大に注意すべきことであります。

▲明治式模範姿勢 扱現在の日本婦人に向つては如何なる姿勢を要求したら宜いか、姿勢は其時代の意思に因て種々に變遷するものでありますから明治時代に於ても必ず時代に適當した姿勢が自然に起ると思ふます、或は既に多少明治時代を代表すべき風姿が現はれつゝありはせぬかと思つて居ります、そこで我々の要求する點は婦人の心が圓滿でなければならぬと共にその體も圓く何處までも優美でなければなりません、併し單に優美だけでは可けません、麗はしく優しい中に崇高と云ふ處があつて、而も堅實清新で成る可く情容を避け何となく心の堅固を示す正容でなければなりません明治の聖代は實に我國歴史上大切な時でありまして我々が今奈良朝平安朝と古に溯つて研究をして居るそれにも増して、更により大なる熱心をして千年後の我々子孫は此明治時代、或は東京朝に於ける諸般の研究を爲すで有らうと思ひます、此光輝ある時代に形造られたる婦人の姿勢は是非共前に申す優美、崇高、堅實、清新の四條件を具

備し後世の模範として恥しからぬものでなければならぬと思ひます其模範としてしは外國に例を取るまでもなく、奈良朝時代の遺物として正倉院に保存せらるゝ吉祥天女、光明皇后の御像を模寫せる觀音像、鴨毛の屏風の婦人像などは最も立派なものであると思ひます

## 兒童に對する尊敬

キング博士演説

◎「天國に於て大なる者は誰ぞや」との弟子の質問に對し、耶穌は殊更に嬰兒を召びて弟子達の前に置き、嬰兒の如く謙遜なる者が天國に於て大なる者なりと諭し、最後に「爾曹この小子の一人をも慎みて輕視する勿れ、彼等が天の使者は天にありて天に在る吾父の面を常に觀ればなり」と教へられた。又當時の人々が其の祝福を受けんとて孩提を耶穌の許に連れ來るを見て弟子等が之を差止めんとしたる措置に對し、耶穌は甚く之に憤激して弟子等を戒しめ、孩提を抱きて之を祝福せられた。